

健診結果から入院リスクを可視化する「リスクシミュレーター」を導入します

日立健保では、10月より「MY HEALTH WEB」に「リスクシミュレーター」を導入します。リスクシミュレーターは、健診結果に基づいて入院リスクを可視化することで、みなさまの健康度を理解しやすくするツールです。

今回は、開発に関わった(株)日立製作所 金融第二システム事業部・公共システム事業部の担当者、そして日立健康保険組合 顧問医の先生に、リスクシミュレーターの機能と期待する効果についてお話しいただきました。(文中敬称略)



菊池 勤
日立健康保険組合
事務局長

8大疾病の将来入院リスクを予測するリスクシミュレーター

菊池 日立健保では、事業計画に基づいて加入者のみなさまの健康維持・増進のため、さまざまな保健事業を展開しています。しかし、2021年度版「健康スコアリングレポート※1」によると日立健保の特定健診・特定保健指導の実施率は、全1,379健保組合中828位となっています。また生活習慣病リスク保有者の割合も、血糖・脂質・肝機能・肥満の数値が全健保平均と比較して「不良」となっており、とくに血糖は、全健保組合平均を100とした指数で、「75」と大変憂慮すべき結果となっています。

日立健保では、健康リスクの高い方に対して、若年層向けメタボ改善指導・特定保健指導、高値未受診者向け受診勧奨、糖尿病腎症重症化予防プログラムなどを通して数値改善のアプローチを行っていますが、特定保健指導以外の参加率は10%程度と低迷しています。こうした状況の中、健診結果を医療機関への受診や生活習慣の改善に活用してもらうためのツールとして、リスクシミュレーターの導入を決めました。

鎌田 リスクシミュレーターのベースとなる「Risk Simulator for Insurance」は、保険会社向けに作成したツールで、健康状態の情報を入力すると、その人が将来8大疾病(糖尿病、脳血管疾患、腎疾患、心血管疾患、高血圧症疾患、痔疾患、肝疾患、悪性新生物)で入院するリスクと、そこにかかる医療費が予測できるようになっています。

シミュレーションの正確性については、検査数値や病歴など、200以上の項目を組み合わせてリスクを定量的に評価しており、総入院日数や医療費ベースで予測平均

絶対誤差5%以下と、性能は非常に高いものとなっています。

大島 今回、そのRisk Simulator for Insuranceを、日立健保加入者のみなさまにご利用いただけるように、リスクシミュレーターとして、MY HEALTH WEBとの連携機能を開発しました。このリスクシミュレーターでは、主に4点のシミュレーション結果をご確認いただくことができます。

まず1点目は、加入者のみなさまの入院リスクに対して、もっとも影響のある健診結果の検査項目や既往歴です。2点目は、15年先までの入院日数の予測値です。標準的な健康状態の方との比較も表します。3点目は、8大疾病ごとの5年以内の入院確率です。4点目は、それらを踏まえた総合的な入院リスクを5段階で表します。これらを、健診結果のままの値と、値を加入者のみなさまが変更して、シミュレーションすることができます。



▲リスクシミュレーター画面
※画像はイメージであり、変更になる場合があります。

病気のリスクを自分ごととらえるために有用なツールとなることを期待

辻 長年産業医を務めてきて、一番問題だと感じるのは、病気のリスクを自分ごと



- ※1 健康スコアリングレポート：健保組合加入者の健康状態や医療費などを、全健保組合の平均や業態の平均と比較し、データを見える化したもの。
- ※2 ヘルスリテラシー：健康情報を入手し、理解し、評価し、活用するための知識、意欲、能力。
- ※3 正常性バイアス：予期しない事態にあったとき、「そんなことはありえない」という先入観や偏見を働かせて、事態は正常の範囲だと自動的に認識する心のメカニズム。

※座談会は新型コロナウイルス感染に十分配慮して実施いたしました。

してとらえにくい点です。たとえば、「あなたは他の人と比べて5倍のリスクがありますよ」と言われても、ピンとこないでしょう。これはいわゆるヘルスリテラシー※2の問題で、医療従事者や健保組合が使う言葉に、専門用語や特殊な言い方が入るため、理解が難しく、受診という行動につながらないわけです。また、正常性バイアス※3により、健診で受診や治療が必要という結果が出て、痛みもなく日常生活に支障がないことから、自分は大丈夫だと受診をしないケースも多くみられます。

菊池 健診結果をリスクシミュレーターでシミュレーションすると、今の生活状態で入院リスクがどれだけあるかがわかります。たとえば、血圧の値を操作すると脳卒中などのリスクが変化する様子わかります。このように、リスクシミュレーターでは自分の健診結果をいろいろ変えてみることができ、この数値が下がればリスクが下がる、上がればリスクが上がるということがわかりやすく可視化されるため、自分ごととしてとらえやすく、生活習慣の改善や受診などにつながるのではないかと思います。

積極的な活用をとおしてヘルスリテラシーの向上をめざす

辻 加入者のみなさまが自分で自分のデータを触りながらリスクを知ることは、非常にメリットがあると思います。さらに、特定保健指導などで、保健師と一緒にデータを触り、アドバイスをもらいながら将来のリスクを見ることも効果的だと思いますので、そのような使い方も検討してはいかがでしょうか。また、リスクを血管年齢で表すなど、見せ方を工夫することで、加入者により響くのではないかと思います。

大島 10月に導入のリスクシミュレーターの機能は、入院リスクがメインになりますが、今後も加入者のみなさまにとって、よりわかりやすく使いやすいシステムにチャレンジしていきたいと思っています。

菊池 今回のリスクシミュレーターの導入は、加入者のみなさまのヘルスリテラシーを高め、健康寿命の延伸や、QOL(生活の質)の向上につながるものと確信しています。みなさま、ぜひリスクシミュレーターを積極的にご活用ください。



大島 猛さん
(株)日立製作所
公共システム事業部
公共ソリューション推進第一本部
公共ソリューション推進第六部
技師



辻 正弘さん
日立健康保険組合 顧問医
(株)日立ソリューションズ
健康管理センタ 名誉センタ長
医師・医学博士・労働衛生
コンサルタント

みなさまの健康をサポートするリスクシミュレーター、ぜひ使ってみてください！



リスクシミュレーターの詳しい説明は4ページに！

